

チャレンジ支援事業

第15回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

日本のスポーツを支える「縁の下の力持ち」を表彰

スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した「縁の下の力持ち」（人物・団体）の活動を奨励する表彰制度です。第15回スポーツチャレンジ賞は、女性アスリートの健康リスクについて、産婦人科医の視点からデータ収集・分析を行い、指導現場に対する啓発活動に結びつけた能瀬さやか氏を選出しました。能瀬氏のチャレンジの足跡や功績は、今後、当財団のホームページで紹介するほか、活動の奨励を目的とした記念事業の実施を予定しています。



●後援：公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本バラスポーツ協会日本パラリンピック委員会



「女性アスリートを啓発することで、女性全体のヘルスケアにつなげていくことが、このチャレンジの最終的なゴール」と、さらなるチャレンジに取り組む第15回受賞者の能瀬氏

情報発信

社会活性化への寄与を目的に各種情報を発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業活動などに関する情報を広く発信しています。ホームページの随時更新のほか、ニュースリリース発行（11件）、YMFS通信配信（約700か所）、年間事業報告書発行（700部）等を行いました。

掲載情報の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。

www.ymfs.jp



Yearly Digest

2022/4 - 2023/3

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2022年度の主な事業活動の実績



2022年度
トピック

未来志向に発展！スポーツチャレンジ賞

～制度を見直して未来志向を鮮明に。縁の下の力持ちのさらなるチャレンジを奨励～

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」の制定15周年を機に、あらためて賞の目的やコンセプト、制度の検証を行い、選考基準の変更など一部見直しを行いました。新制度は、従来の奨励賞と功労賞を一本化するなど、受賞者のさらなるチャレンジを奨励する未来志向のアワードとして発展を目指すものです。第15回スポーツチャレンジ賞の募集・選考から、この新制度の運用を開始しました。

チャレンジ支援事業

スポーツチャレンジ助成

アフターコロナへの道筋として「対面交流」を本格再開

スポーツを通じて世界に羽ばたく逞しい人材の育成を目的とする本事業は、2022年度（第16期）チャレンジャーとして29名を助成。成長プロセスを重視する独自のサポートプログラムによって、それぞれの夢・目標の実現を支援しました。

個々のチャレンジを総括し、成果や課題を共有する「第16回YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」は、新型コロナウイルスの5類感染症への移行を見据えて4年ぶりに対面形式で開催。3月25～26日の二日間、東京・日本青年館に第16期生・第17期生のチャレンジャーが一堂に会し、質の濃い交流が行われました。

これまで同様、成果報告会や修了式等の各種式典に加え、野口智博審査委員の指導・ファシリテートによる異分野交流会、日本オリンピックミュージアム見学等のプログラムも実施し、「つながりの価値」を実感しながら、笑顔あふれる相互刺激発揚の場となりました。



日本オリンピックミュージアムの見学会。チャレンジャーと審査委員が全員で訪問



4年ぶりに対面形式での開催となったスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング



新たに迎えた第17期生も、スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングに参加



コロナ禍においても、夢・目標の実現に向けて果敢にチャレンジした第16期生

スポーツ体験促進事業

ジュニアヨットスクール葉山

安全対策をとりながら、すべてのスクール活動を再開

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成のために、神奈川県葉山町を拠点として通年型のヨットスクールを運営しています。2022年度は、24名のスクール生を対象に毎月2〜3回の指導を行いました。これまで同様、セーリング指導、強化練習、水辺活動・安全対策等に加え、近年では葉山周辺で開かれる大会に積極的に参加するなど、より総合的な視点での指導プログラムを実施しています。新型コロナウイルスの第7波等の影響もありましたが、安全対策をとりながら、3年ぶりにすべてのスクール活動を再開することができました。



2022年度は24名のスクール生が活動。安全対策を行いながらすべてのスクール活動を再開



子どもたちの可能性を探り伸ばす指導を実践



スクールの運営方針を保護者の皆さんとも共有



教室やレスキューボートなど設備・施設も拡充

第31回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

全国のジュニア・ユース選手が集まり、4年ぶりに開催

3月19〜21日の3日間、静岡・三ヶ日青年の家を会場に、4年ぶりとなる「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」を開催しました。大会ではOP初級、OP上級、ILCA4級、ILCA6級、420級の5クラスが開かれ、全国から集まった70名（66艇）のジュニア・ユース世代のセーラーたちが、早春の浜名湖で日頃磨いた腕を競いました。



全国から70名（66艇）のジュニア・ユースセーラーが出場



好天に恵まれた4年ぶりの大会



ユース代表選考対象レースを含む5クラスを実施



第31回「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。

第34回全国児童 水辺の風景画コンテスト

全国の幼稚園・学校・団体から応募総数16,930点

自然の中で発見・体験したことを表現する絵画コンテストです。自然体験の機会を創出するとともに、創作活動を通じて豊かな感性を育むことを目的に実施しています。本年度は全国の幼稚園・小学校・団体等から合わせて16,930点の作品が寄せられ、入賞作品23点と入選作品306点を決定しました。審査員長の国広富之さん（俳優・画伯）は、「水辺でのさまざまな体験と創作活動にそれぞれチャレンジがある。このコンテストへの参加が、子どもたちの成長のきっかけとなることを願っている」と講評しました。なお、入賞作品は当財団のホームページで紹介するとともに、ジャパンインターナショナルポートショー2023の会場に展示され、多くの来場者の目を惹きつけました。

- 協賛：三井住友海上火災保険株式会社、マルマン株式会社、株式会社ワイズギア
- 特別協賛：ヤマハ発動機株式会社
- 後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、一般社団法人日本マリンスポーツ協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、NPO法人ジャパンゲームフィッシュ協会、一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構、一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会



国広富之審査員長と入賞作品（最終審査会）



スポーツ教材の提供

全国120の幼稚園・学校・団体にスポーツ教材を提供

子どもたちのスポーツ機会の充実を目的に、全国の幼稚園、小学校、特別支援学校等を対象に展開している「スポーツ教材の提供」に、2022年度は663件（前年度772件）の応募が寄せられました。4月28日には（公財）日本スポーツ協会の泉正文副会長による厳正な抽選会を行い、当選した計120の幼稚園や学校、団体にポッチャボールセット、タグラグビーセットを提供しました。

教材の提供先には活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例については当財団ホームページで紹介し、社会啓発に努めています。



（公財）日本スポーツ協会の泉正文副会長による抽選会

ユニバーサル・スポーツ体験会 チャレンジ！ユニ★スポ

静岡県内の小中学校11校で体験会を開催 学術調査によって、その成果を確認

2019年にトライアル事業として開始した「チャレンジ！ユニ★スポ」は、障害者スポーツとして生まれた競技を楽しむユニバーサル・スポーツの体験会です。スポーツを通じて多様性への理解を深める機会として、2022年度は静岡県内の小中学校11校で開催し、合わせて719人（児童生徒663人、教員56人）が参加しました。

本事業は、学術調査を兼ねて実施しており、体験会の前後に児童に対するアンケート調査を行っています。ポッチャ体験を通して、子どもたちの障害や障害者スポーツに対する意識がどのような変化をもたらすかを調査し、報告書に掲載しました。この結果、一連の学習が児童の障害イメージをポジティブに変容させるとともに、1年後も障害イメージやアダプテッドへの意識が定着することが示されました。



学術調査を兼ねて11校で開催

調査研究

「障害者スポーツ」の調査研究を進展し、 調査報告書発行／説明会実施

障害者スポーツ分野の調査研究を進展し、①障害者スポーツ選手のキャリア調査、②テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査、③パラリンピアンに対する社会的認知度調査、④テレビコマーシャルによる障害者スポーツ情報発信環境調査、⑤ユニ★スポ体験での児童の意識変容調査を実施し、それらの結果を調査報告書として発行（2,000部）しました。また、8月8日にはオンラインを併用して記者説明会「障害者スポーツを取り巻く環境について」を実施しました。

